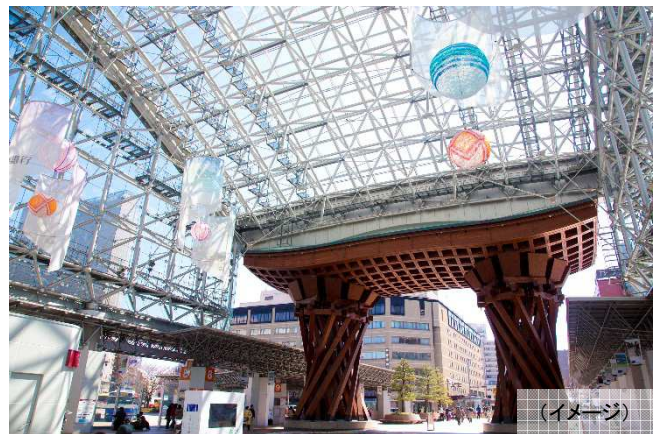


金沢駅(鼓門・もてなしドーム)

「もてなしドーム」は、訪れる人に差し出す雨傘をイメージし、おもてなしの心を表わした建物。ドームすぐの「鼓門」は、金沢の伝統芸能である加賀宝生の鼓をイメージした門で、伝統と革新が共存する街「金沢」のシンボリックな存在となっている。



兼六園

紅葉のベストシーズンに訪れる日本三名園

1. 加賀百万石の文化を映す、歴史的文化遺産

水戸偕楽園(かいらくえん)、岡山後楽園(こうらくえん)とならぶ日本三名園の一つ、兼六園。兼六園は江戸時代の代表的な大名庭園として、加賀歴代藩主により、長い歳月をかけて形づくられてきました。金沢市の中心部に位置し、四季折々の美しさを楽しめる庭園として、多くの県民や世界各国の観光客に親しまれています。

2. 広大な土地に、池、築山、御亭を配置した、廻遊式の庭園

兼六園は、「廻遊式」の要素を取り入れながら、様々な時代の庭園手法をも駆使して総合的につくられた庭です。廻遊式とは、寺の方丈や御殿の書院から見て楽しむ座観式の庭園ではなく、土地の広さを最大に活かして、庭のなかに大きな池を穿ち、築山(つきやま)を築き、御亭(おちん)や茶屋を点在させ、それらに立ち寄りながら全体を遊覧できる庭園です。いくつもの池と、それを結ぶ曲水があり、掘りあげた土で山を築き、多彩な樹木を植栽しているので、「築山・林泉・廻遊式庭園」とも言われています。

3. 歴代藩主が抱いた繁栄の願いを投影

何代もの加賀藩主により、長い年月をかけて形づくられてきた兼六園ですが、作庭における基本的な思想は一貫していたようです。その思想とは神仙思想。大きな池を穿って大海に見立て、そのなかに不老不死の神仙人が住むと言われる島を配します。藩主たちは、長寿と永劫の繁栄を庭園に投影したのです。最初の作庭者、5代藩主・綱紀(つなのり)は、瓢池に蓬莱(ほうらい)・方丈(ほうじょう)・瀛州(えいしゅう)の三神仙島を築きました。また、13代藩主・斉泰(なりやす)も、霞ヶ池に蓬莱島を浮かばせています。



〔瓢池〕



〔眺望台〕



〔噴水〕



〔根上松〕

近江町市場

金沢市の台所！ 約185店舗あります。

鮮魚・青果・菓子・昆布・蒲鉾製造販売・豆腐製造販売・花など食材、生活用品などピンからキリまで何でもそろいます。おみちよの魅力は新鮮で豊富な品揃えそして対面販売！威勢のいい売り子の声がひびく市場の雰囲気、旬の食材の調理法などお店の方とのやり取りはスーパーでは味わえないお買物の楽しさを味わえます。

飲食店も多く市場の新鮮な旬の食材を使った美味しい料理が召し上がれます。



千里浜なぎさドライブウェイ

水平線を眺めながら波打ち際を走る。日本で唯一「車で走れる砂浜」。海風が社内を吹き抜けていく爽快感は、体験した者にしかわからない。



加賀屋

伝統のおもてなしを体験・おもてなし講演傾聴

「プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選」において35年連続総合日本一



妙立寺(通称:忍者寺)

加賀藩第三代藩主前田利常が創建した。複雑な建築構造と外敵を欺く仕掛けから、通称**忍者寺**(にんじゃでら)とも呼ばれる。



(イメージ)

[賽銭箱(落とし穴)]



(イメージ)

[望隣(物見台)]



(イメージ)

[落とし穴階段]



(イメージ)

[隠し階段]



(イメージ)

[謁見の間・主茶室]



(イメージ)

[明かりとり階段]

金箔貼り体験

伝統の技とともに生き、本物の金箔の美しさを体験

日本の金箔生産量の98%以上、銀箔・洋金箔・上澄においては100%のシェアを占める金沢。金箔は、金閣寺や日光東照宮などの歴史的価値が高い寺社仏閣をはじめ、漆器、陶器などさまざまな工芸品に使われています。



ひがし茶屋街

ひがし茶屋街は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、「街並みの文化財」として保存策が進められています。

